これは甚だ危險ですから、斯樣なことはせず、それよりも腓腸部に芥子泥を貼るか、其の後ろに十五乃至二十四の水蛭を貼けて、血を取るのもよろしく、それから灌腸を施して排便を促すのは、腸內の血壓を弛緩せしむる效がありますから、必ず之を行ふがよろしい、先づ素人の行ひ得べき療法は右の通りです、その外はすべて醫者に一任しなければなりません。』

第三章　便秘とその療法

問『秋になると、よく便秘が起り勝のものですが、どうしたら便通がありませうか』

答『第一に便秘を來す飲食物は避けねばなりません、即ち赤葡萄酒、ショコラーデ、カカオ、ココア、茶、コーヒ等は便秘させる傾きかあります。また半搗米、麥飯、ソバ、甘藷、野菜等は器械的に腸の運動を促すの效があり、ヨーグルト、バタ、果實、果汁等は化學的に腸運動を刺戟する故、これ等の物を常に用ひてゐた方がよろしい、果實中葡萄は殊に結構であつて、その他蜂蜜、ジャム、甘い白葡萄酒、葡萄汁、苺汁等も結構です。それから朝起きると直ぐに冷水を一杯呑むか、または冷き食鹽水、冷き牛乳、冷きリモナーデ等を飲むがよろしく、此等の方法にて大抵は通じがつきます、下劑は習慣になるから成るべく用ゐぬ方がよろしく、又止むを得ざるときには、カスカラ錠を十粒ほど使用するのです。』

第四章　下痢と其療法

問『便秘の反對に、數次に下痢する人がありますが、それはどう手當したらよ

ろしいでせうか』

答『下痢にはいろ〳〵ありますが、その何れの種類を問はずに、初めには腸に何か惡い物、早く云ふと毒になるものが入るか、溜るかする爲めに起るものですから第一に下劑を以て之を掃除して了ふと、それだけでも癒ることがあります。下劑にはいろ〳〵ありますが此の場合に素人用として可なるは、ヒマシ油で、それを二〇、〇或は三〇、〇ほど飲み、そして腸の中にあるものが、しつかり出て了つたならば、今度はデルマトールと云ふ止瀉劑の三、〇を三回に分けて一日三回に分服します。それからゲンノショコと云ふ、蔓草の蔭干にしたもの（藥種屋にあり）十匁に水五合入れて、三合に煎じつめたものを二日に服用するのですが、これは民間療法ですけれども非常に效があります。』

第五章　若白髮と其治療法

問『敢て秋に多いと云ふわけではありませんが、若白髮は此頃よく目立つやうですが、これは癒らぬものでせうか』

答『從來は、殆んど癒らぬものとしてあつたが、最近亞細亞丸を長く服用すると、自然に黑くなると云ふことが判りました。然しそれは强い藥でもあり、また追々にその分量を殖やして行かねばならぬ故、元より醫者の手當を要するものであります。』

十一月

第一章　糖尿病

糖尿病とは何ぞや

問『近頃大分糖尿病と云ふ病名を聞きますが、これは一體どう云ふ病氣でせうか』

答『糖尿病の眞の原因は不明ですが、四十歳以上の上流の男子に多く、幾分遺傳の關係もあり、黴菌とは密接の關係があり、また神經衰弱の爲めにも起ります。

糖尿病は肥滿して一見強壯らしき人に來り、また初期には左程重大な症狀を呈せぬ故、格別のことも無いと思つて居る中に、追々病勢が增進して行くことがあります。本症の初めには、食慾や食味の變狀、酸性嘔吐、胃部膨滿等があり、次で眩暈、耳鳴、頭重、不眠、逆上等も起りますが、その特異なるは、尿中に糖分を排泄することであつて、然もその排泄量は非常に多いものです。その外本症に特有の徴候は、食慾が非常に亢進して、いくら食べても食べ飽きないけれども、身體はだん〲痩せて來る。咽頭は頻りに渇くと云ふことで、神經痛があつたり、皮膚に瘙痒があつたり、齒牙脱落、陰萎、月經不順等を來す、甚しきは生命に關するものであります。』

糖尿病の治療法

問『糖尿病は容易に癒らぬと云ふがほんとうでせうか』

答『本症は重症の一つですが、初期に充分なる治療を加へれば癒るものであります。此の病氣は藥物よりも、日常の食餌が關係深いもので、米飯、芋類、パン等の澱粉食は多くは禁物であるから、我々日本人には誠に困る病氣です、然しそれも人によつて異なるもの故、食養は個人々々によつて選ばなければなりません。藥物は阿片、ジヤンプルシード其外澤山あり、また漢法にては山歸來を煎じて服用せしめたもので、これは割合に效があります。』

第二章　鼻加答兒と其療法

問『此頃になると、よく鼻感冒を惹きますが、それはどうすれば癒りますか』

答『鼻感冒は醫者の方では、急性鼻加答兒と云ひ、寒冷、不潔の空氣の吸入等によつて起るもので、始めは幾度も嚔が出、そして水のやうな鼻汁が出、追

追それが濃くなり、鼻がつまり、また同時に喉頭その他も侵さるゝ爲め咳嗽が出たり、頭痛がしたり、涙が出たりします。本症の輕いのは、室内を溫かにして一日も休んで居れば癒る。そしてアスピリンと云ふ藥を一回〇、五づゝ一日三回服用し、それと同時に、吸入器で蒸氣を鼻から吸ふがよろしく、大抵は一兩日の中に癒るものです。尚ほその後の鼻腔のグツ〳〵は、微溫の食鹽水を吸入するがよろしいが、然し本症が慢性になると、容易に癒らぬばかりでなく、肥厚性鼻炎などを起して、後害を殘すもの故、成るべくは專門家の治療を受けた方がよろしい。』

第三章　生殖器神經衰弱（陰萎、早漏、遺精等）と其療法

問『此頃にはよく種々なる生殖器病を起して來ますが、これは簡單には癒らぬものでせうか』

答『生殖器病即ち勃起力不完全、早漏、遺精、夢精、不感等は、皆それぞれ種々の原因がありますが、要するに此等のものは生殖神經衰弱ですから、攝生法を守ると共に神經の强壯藥を用ひれば癒りますので、これに一番よいのはST液の皮下注射であつて、此の實驗例は、前に四月の項に、神經衰弱の療法のところにあります。それから內服藥としては、矢張カルビタミン錠を永く服用するのが一番よい療法となつてゐます。』

第四章　不眠と其療法

問『夜長になつて、眠られぬと云ふのは、誠に苦痛なものですが、かういふ場合にどうかうまく安眠する方法はありませんでせうか』

答『不眠症は、よく神經衰弱などに來ますから、若しかういふ病氣になつたならば、第一にそれを治療しなければなりません。それから唯何となく眠られぬと云ふ人であつたら、先づ寢室と寢具との完備が必要であります。それから不眠症に效のある方法としては、第一は溫浴で、少し微溫目の湯に十分乃至二十分間位、成るべくゆつくり充分に溫まつて後、乾きたる手拭を以て充分に摩擦して、それから直ぐに床に入るとよく眠られるものです。それから人によつては冷水摩擦もよろしく、床へ入つてから腹部を靜かに摩擦するもよく、腹式呼

吸法を靜かに行ふもよい、それから精神の集注法として、一二三と數を算へるとか、時計のセコンドの數或は呼吸の數を數へるとか、足の指を屈伸するとか云ふことも效がありますから、何れなりと實行して見るがよろしいが、若し神經が亢奮してどうしても眠れず、その爲めに翌日は仕事が出來ぬと云ふ樣であつたならば、已むを得ず眠り藥を醫者から貰はねばなりませんが、然しこれは習慣になりますから、成るべく用ひない方がよろしい。』

十二月

第一章　咽喉加答兒と其療法

問『冬になると、咽喉加答兒になる人がよくありますが、これに就て承りたいものです』

答『咽喉加答兒は、八釜しく云ふと、咽頭加答兒と、喉頭加答兒と二つに分けねばなりませんが、まあ早く云ふと同じやうなもので、急性症は塵埃の多い乾燥した空氣中に呼吸して居るとか、又は聲音を濫用したとか、其他喫煙や飲酒の過度によつて起り、慢性症や急性症を充分癒さなかつとき、又は鼻腔や、鼻咽腔に病氣のあつたときに起り、刺戟性の瓦斯を吸入することなとも、矢張原因となります。

何れも音聲が嗄れ、咽喉が乾いて痒く、甚しきは傷のあるやうな感じがして痛む、咳嗽が出たり、痰が出たりしますが、治療法としては、その原因を去ることが第一に必要ですから、飲酒・喫煙等の惡癖は之を廢め、刺戟性の食物を

禁じ、微温の飲食物を攝り、急性のときは、温い少しく濕潤せる室内に居り、頸部の周圍に五十倍硼酸水の濕布をなし、百倍の食鹽水、重曹水等の吸入、五十倍鹽剝水、十倍過酸化水素水等の含嗽を行ひますが、素人用として最も簡單なのは番茶の少し微温いのに、少し食鹽を加へたもので含嗽するとよろしいのです。尙ほまた咽喉内に藥液を塗布せねばならぬこともありますが、これは素人には出來ませぬ故、醫者の手當を要します。尙は度々本症に罹り易い人は、常に頸部の冷水摩擦をして居れば、之を豫防することが出來ます。』

第二章　扁桃腺炎と其治療法

問『子供が冬になると、間々扁桃腺炎を起して困りますが、これはどうしたらよろしいでせうか』

答『扁桃腺炎も矢張急性咽喉加答兒と同じ原因で起るもので、咽頭の兩側にある扁桃腺が主として犯されるものであつて、時としては一家族の中に、多數の同病患者が出來ることもあります。そして此病氣に罹ると、扁桃腺は腫脹して甚しく赤くなり、時としては扁桃腺の處々に黄白色の斑點が現れて、丁度ヂフテリアのやうになることがあり、腫脹甚しきときは言語に障害を及ぼして不明となり、幼年者には時として呼吸困難を起すこともあります。熱は割合に高くして、時に三十九度以上に上ることがあり、また頭痛があつたり、劇しく嚥下痛を發する等は重なる症狀であります。

扁桃腺炎に罹つたときには、安靜に平臥して、無刺戟性の、即ち冷い牛乳や粥などを與へ、頸部には氷嚢を當てゝ冷すとよろしい。そして本症の度々起る人や、または慢性症になつて肥大を起せる人にあつては、醫師に就て之を除つ

て貰ふがよろしい。手術は極めて簡單であるから、赤ん坊でも、苦く無く除れるものです。』

第三章　赤鼻と其治療法

問『寒くなると、よく鼻を赤くして居る人がありますが、此のアカ鼻は癒らぬものでせうか』

答『アカハナ即ち酒皶鼻は、寒温の劇變殊に寒い戶外に長く出て居る等の爲めに起りますから、どうしても、嚴寒の候には多いものです。それから酒を澤山に飲む人、殊にウヰスキー、ブランデーの如き强き酒を飲む人に多く、また胃腸の惡しき人、心臟の惡い人、また婦人の生殖器病等を有する人に多いものですから、治療法としては、先づ此等の原因を除かなければなりません。それから塗布藥は澤山ありますが、最も有效なるはアクトールであつて、これを度々塗るとよろしい。若しまた鼻瘤が出來るやうに增殖したものであつては、外科手術を行ふより外に方法がありません。』

第四章　腎臟炎

腎臟炎の種類

問『よく感冒から腎臟炎を起すと云ひますが、此の腎臟炎は、子供に來るものも、老人に來るものも同じでせうか』

答『違ひます、腎臟炎は、その原因により、また臨床上の症候によつていろいろの種類がありますが、醫者は左の三種に區別して居ります。

一、急性腎臟炎　急性に經過し、多くは數週日にして恢復に赴くが、稀れに

は不良の結果を來すものもあります。

二、慢性腎臓炎　臨床上並に病理解剖上の所見に基いて、更に二種に區別する。

其一慢性實質腎臓炎　尿中蛋白の含量並に圓壔を出すもの。

其二慢性間質性腎臓炎又は萎縮腎　これは主として老人に來るものであつて、尿量多く清澄にして、蛋白圓壔等少く、長く浮腫等の現はれざるものである。

此の區別は、從來最も廣く行はれてゐますが、實際は不完全な方法であつて、此の定型に當て嵌まらぬものもあります。』

腎臓炎の原因

問『それでは、腎臓炎の原因となるものは何でせうか』

答『原因は非常に多くあつて、第一は傳染病殊に、猩紅熱、ヂフテリー、扁桃腺炎等の後に多く、また多くの藥物の中毒によつても起ります。それから動脈硬化もまた本病を起すものであつて、腎臓血管の硬變が、腎臓に變性的障碍を起すものです。老人は生理的に血管硬變を來すものであるからして、老人にはよく慢性腎臓炎即ち萎縮腎が起ります。またこれと同じ理由で肥つた人にも起り易く、また黴毒に罹つた人にも起り易いのもあります。

腎臓炎は、その急性たると慢性たるとを問はず、原因の不明なる場合が多いものであつて、突然身體を濕潤したとか、或は身體の全部または一局部を冷却する等の輕微なる原因が本病發病の動機となることがあり、實際唯感冒を惹いた後にも本病を起すことが間々あります。尤も注意しなければならぬのは、日常の習慣、或は嗜好品が本病の原因となる場合があることです。即ち濃厚なる

茶及び珈琲または藥味等を日常多量に好んで用ひ、或はまた多年の飲酒、喫煙等の爲めに腎臓炎を起すことがあり、その外一般に不攝生なる生活法も本症を起す原因となることがあります。』

腎臓炎の症候

問『腎臓炎に罹ると、どういふ風になりますか、つまりその症候はどういふでせうか』

答『腎臓炎の多くは無熱のものですが、時には高熱のものもあつて、これは多くは惡寒がして起る、それから腰部の邊りに僅かに痛みのあることもあるが、痛みの無き場合の方が多い。尿は何度も何度も出るが、一回の量は甚だ少い、そしてその尿は甚しく溷濁し、その色は或は褐色に、或は赤く、或は生肉を壓して出る肉汁の色の如きもあれば、或は全く血液様に着色して暗紅色を呈することもあります。また此の尿を化學的に檢査すれば、殆んど毎常蛋白質の含有を見るものであります。それから身體がだるい、一寸した仕事をしても直ぐに疲れるやうになる、頭痛がする、食慾が衰へて顔色が惡くなり、追々に全身に浮腫を來す、腎臓炎の浮腫は多くは顔面に始めて、それからだん／＼に全身が浮腫んで來るものであつて、此の尿の變狀と浮腫とは腎臓炎に起る最も重要なる症候の一つであります。

以上は主として急性腎臓炎の症狀ですが、これに適當の時期に、適當の治療を加へないと、慢性症に移り行き易きものであり、或はまた初めから慢性にやつて來るものもあります。慢性症にあつては、症狀は格別劇しいことは無く、顔の色は多少惡いが、浮腫は少いか、或は無い。食慾は思はしくなく、頭痛もあるけれども尿の量はさう減らないやうな場合が多いものです。それから慢性

症には、よく尿毒症が起り易いものである。尿毒症とはどんなものであるかと云ふに、その初期に起る症狀は、頭痛、惡心、嘔吐、眩暈、耳鳴等が起るから、かういふ症狀が起つたならば、驚いて片時も早く適當な治療を加へなければなりません。

それからもう一つは萎縮腎であります。これは殆んど何等症狀の認むべきものが無く、唯尿量が增して、夜間それが爲めに度々起きなければならぬ位のものですが、これも矢張突然尿毒症や卒中を起すことがあります。

腎臟炎は癒らぬか

問『私は永らく腎臟炎に罹つてゐますなど云つて、よく五年も十年も惱んで居る人を見受けますが、一體腎臟炎は癒らぬものでせうか』

答『決して癒らぬことはありません。急性症の初期に適當の治療をすれば癒るものですが、既に慢性症に陷つたものにあつては、必ず治癒するとは限りませんが、その性質によつては充分に治療すれば癒り得るものであります。それで癒らぬときには、どうなるかと云ふに、尿中に蛋白や圓壔が長く出て居つて、除れたと思ふと、また出る、出たと思ふとまた出なくなると云ふ風であります。それでこれが生命に關するかどうかと云ふに、慢性腎臟炎があつて、適當の養生を行へば永く活きて居られる、殆んど天壽を保つことが出來、職業も劇務で無い限りは就職しても差支が無い程度になりますが、然し不注意にするとか、不攝生をするとかすれば、尿毒症または併發症を起すの虞れがありますから、充分に注意して養生しなければなりません。

それから萎縮腎の方は輕いものならば、格別治療をしなくとも、多少の注意を加へれば、それで差支がありませんが、これも不攝生をすれば、尿毒症や卒

中等を起すことになりますから、日常の注意は何より肝要であります。』

腎臟炎の治恰法

問『適當の治療法と云ふと、どういふ風に治療するものでせうか』

答『腎臟炎は、前にも云ふが如く、いろ〳〵の種類があつて、その種類によつて治療を異にするは申すまでも無いことであり、その他種々の關係からして、非常に復雜になつてゐますから、全體に當て嵌める治療法を一言にして云ひ盡すわけにはいけませんが、大抵に就て云ふと次のやうなことになります。

第一は、寢起きの注意ですが、これは急性症のときには、安靜溫保と云ふことが必要ですから、先づ溫くして床の中に寢て、靜かにして居なければなりません。慢性症なれば强ひて寢る必要のない場合が多いが、然し身體を成るべく動かさぬやうの注意は必要であります。尤も浮腫の取れたのを何時迄も寢て居る必要はありません、長く寢て居ると、神經質になるからして、假令身體の安靜を保ち得るにしても、精神は不安になるから、反つて惡い影響を及ぼすことになります。安靜と云ふのは、單に身體の安靜のみではなく、また精神の安靜をも意味するものと心得ねばなりません。要するに浮腫のあるときは、寢かすのは原則であつて、浮腫が取れゝば、だん〳〵起すと云ふのですから、急性症のときには先づ寢かす。それからだん〳〵起すと云ふ風にするのであります。

その他起居も成るべく靜かにして心身の安靜を計るのが何よりの注意であります。それから溫かにして居ると云ふこともまた必要の注意であるから、寒い目に逢はぬやうにするのですが、然し溫かいがよいと云つても、無暗に溫保すると、反つて皮膚を弱くして、いろ〳〵の害を及すもの故、その點を考へなければなりません。要するに腎臟炎の治療法は、起居動作の注意は第一であつ

て、飲食物の注意は第二、藥物療法はその位に位するものであります。』

問『腎臓炎の食養生は極めて大切とのことですが、それに就て詳しく承りたいものです』

腎臓炎の食養生

答『一般に云ひますと、腎臓炎には、總て腎臓を刺戟するものは避けなければなりません。即ち鹽辛き物、藥味の類等は禁物です、その次に多少注意して與へなければならぬのは肉類であつて、これは禁ずるほどではないが、多少の注意を要する、また制限の必要がある、すべて病人は營養を良くする爲めに、多量の肉類や卵を食べるのが習慣であるから、此點は大ひに注意を要するものであります。

食鹽の攝取は、浮腫と大關係のあるものであつて、食物中の鹽の分量が多くなると、浮腫が增して來、食鹽の量を減ずれば、從つて浮腫が減つて來る場合が多い、また窒素を多量に含んで居る食物、即ち肉類などは、尿毒症を起す原因物に變じ易い故肉を制限するので、鷄卵も矢張澤山はよろしくない、生卵を澤山に食べると、健康人でも極めて輕微の蛋白尿が出て來ます。然し肉や卵を全然廢めさせる必要の無い場合が多い、即ち少し位ならば差支が爲いのであつて、鷄卵の半熟にしたのは、一日二個や三個は一向差支のないものです。

腎臓炎に罹ると、多くの醫者は盛んに牛乳を飲ませるが、本人が好きで飲むならば格別、嫌ひなものには強いて飲ませる必要はありませんから、此の場合には米湯、葛湯、お粥、または普通の御飯を食べさせて宜しい。それから果物は大抵は宜しく、野菜も結構であるが、酒は申すまでも無く惡い、ソツプはいけない、殊に尿毒症のときには禁物です。若し飲むならば野菜ソツプならば差

支が無く、また肉類中罐詰、乾物、味噌漬、鹽物、ハムや野獸の肉は禁物であります。
萎縮腎のときには、酒、煙草、藥味等を避け、肉類を控へ目にするだけでもよろしい。咽喉が乾くならば湯や水を飲んでもよろしいのですが、大量を一邊に飲まずに、少量づゝ度々飲むのですそれから尿毒症の場合には飲食物に非常の注意を要するものであつて、殊に急に尿毒症の起つたときには、米湯や牛乳等の流動食に限り、場合によつては牛乳を與へてならんこともあり、唯果汁と砂糖水、炭酸水、平野水等を少量に與へるに止めることもあつて、腎臓炎の食養は、なか〳〵面倒なものであります」

第五章　避寒の心得

避寒の必要なる人

問『寒くなると、避寒に出かける人が澤山ありますが、これはどういふ人達に良いものでせうか』
答『我日本位の氣候では我々健康人には避寒は元より、避暑杯も、必要はありませんが、然し病人とか、病後の恢復期にある人とか、虚弱なる人、または老人などには必要の場合があります。尤も此等の人と雖も、一應は醫師の指揮を受けてその人に適する場所を選ぶの必要があります。』

避寒地に必要なる條件

問『避寒地としては、一體どのやうな條件を要するものでせうか』
答『避寒地は一と口に云へば、暖かい所でさへあれば何處でもよろしいかと云ふに、唯それだけではいけません、勿論寒くては困るが、先づ第一に潮流の關

係を研究して、日中と夜分と溫度の差の少い上に、現在の居住地よりも溫かいところと云ふのが必要條件であります。それから交通機關の設備が完全し、また諸般の衛生狀態や、宿舍の關係、食料品の供給等もよろしきを得なければなりません。それで我が國で溫かいところと云へば、臺灣、琉球、小笠原島、八丈島より九州、四國方面、東京近傍では伊豆、安房、相模の沿岸等ですが、一般には西北に山を負ひ、東南は海に面するところがよろしい、と云ふのは西北に山を負へば北風と西風の寒風を避け、また東南が海に面するところは、太平洋上黑潮と稱する暖流の作用を受けるからして、自然に溫暖であるばかりでなく、日本太陽の映射を受けることが自ら大なるによつて、從つて暖氣を吸收することが大であります。』

何處がよろしき乎

問『それでは、どの邊が最も避寒地に適して居ります』

答『それには先づ前記の要約に基いて比較的研究を試みねばなりませんが、一般に房州や伊豆邊の海岸が避寒地に適して居るやうです。東海道方面も惡いことはありませんが、處によつては強く西風を受くる土地もあるから注意を要します。

今試みに現今避寒地と稱せらるゝ土地に就て、最低溫度の十年平均を見ますと

	攝氏　度
銚子港	三、八
濱松	二、八
沼津	二、三
熱海	四、五

十二月

赤間ケ關	四、八
高知	二、〇
和歌山	三、〇
宮崎	四、六
鹿兒島	四、九

と云ふことになつてゐますが、東京附近では伊豆の熱海は最も溫暖であり、それに西北に山を負ひ、南東は海に面し、且つ溫泉の湧出もあるから、避寒地としては最も適當ですが、目下のところは交通が不便なのは缺點です。此等の土地第一は熱海、それに次で伊東、それから房州の沿岸、逗子、葉山、遠いところでは三州の海岸なども結構です。』

避寒の注意

問『避寒に就て、特別に注意することはありませんか』

答『避寒する人は、大抵は十二月の末あたりから出かけて、一月一杯も居つて、二月になると歸ると云ふ風が多いやうですが、二月殊に東京の二月と來ては、それこそ天候のひどい季節ですから、暖かいところから、かういふ氣候の處へ歸つて來るのは反つてよろしくありませんから、避寒の必要があつて轉地すると云ふやうな人にあつては、三月の末か四月頃の溫かくなつたところで歸つて來ると云ふ風にしなければなりません。これは最も大切の注意であります。

病氣相談十二ケ月　終

大正十一年七月一日印刷
大正十一年七月五日發行

正價金九拾錢

不許複製

著者　東京市小石川區原町百二十五番地　伊藤尙賢

發行者　東京市牛込區横寺町二十二番地　小出峰作

印刷所　東京京市橋區木挽町二ノ十三番地　株式會社尙文社

發行所　東京市牛込區横寺町二十二番地　東華書院　振替東京四五五五一

發賣所　東京市芝區愛宕下町二ノ四（日陰町通）　京橋堂書店

大賣捌　東京堂　北隆館　東海堂　至誠堂　新橋堂

健康相談所の事業

一、健康增進法の相談

一、小兒健康法の相談

一、體格檢査及び健康診斷

一、病氣の相談

毎日午前中診察及び相談に應ず（詳細規定申込次第送呈）

東京市小石川區原町百二十五番地（電車市電巣鴨線原町下車）

健康相談所

所長 醫士 伊藤尚賢

健康相談所長 醫士 伊藤尚賢先生著

受胎制限並に姙娠と避姙

定價金九十錢送料六錢

菊判半裁形 九ポイント 總振假名付

世が文明に進み生存競爭が劇甚になると種々な問題が生ずる受胎制限法即ち避姙法の如きも其一つである之避姙法も公然許可せる國もあるが我國にては之を可否する程事情が切迫して居らぬが早晩逢着する問題である而て避姙を知るには姙娠の原理をるらねばならぬと共に姙娠を欲する人は殊に之を知る必要がある不姙流産の如も最進學術の進歩によつて或程度迄之を救ふ事が出來る此等の人の爲に人工姙娠法をも附記した本書は上編受胎制限法下編姙娠と避姙廿三章六十節總ふりかな裝幀頗る高雅男女必讀の良書也

最新刊　三宅好雄著

野球競技の見方

現今野球競技が白熱的の流行を來して居るのは其競技が科學的であり且限りない興味を有するからである本書は野球の成立より理解の方法を始め試合見物術語等まで手取り早く諒解の出來得るより極めて簡明しかも完全な説明が記述してあるが故に野球競技者及野球を知り且つ野球を見んとする人の最良書である（郵便切手代用諾）

菊版牛裁判形
九ポイント活字
正價卅錢送料二錢

東京市牛込區横寺町二十二　東華書院　振替口座東京四五五一五番

124
11

終